



Sun A. Kaken

**第115期(2024年3月期)
決算説明会**

株式会社 サンエー化研

2024年6月4日

目次

1. 第115期(2024年3月期)決算概要

- 連結貸借対照表(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

3. 第116期(2025年3月期)業績予想と今後の施策

- 翌期業績予想
- セグメント別業績予想、今後の施策(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

4. 参考情報

- トピックス
- 基本情報

目次

1. 第115期(2024年3月期)決算概要

- 連結貸借対照表
(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

第115期決算概要: 連結貸借対照表(資産の部)

(単位: 百万円)

科 目	2022年3月期末 (第113期末)	2023年3月期末 (第114期末)	2024年3月期末 (第115期末)	対前期 増減額	対前期 増減率
流動資産	22,570	22,408	22,950	542	2.4%
現金預金	7,296	6,262	7,317	1,054	16.8%
売上債権	10,671	10,883	10,579	▲303	▲2.8%
棚卸資産	4,269	4,987	4,840	▲146	▲2.9%
その他	332	274	212	▲62	▲22.7%
固定資産	13,376	13,202	14,489	1,286	9.7%
有形固定資産	7,060	6,835	6,723	▲111	▲1.6%
無形固定資産	47	40	87	47	118.6%
投資その他の資産	6,268	6,327	7,678	1,351	21.4%
資産合計	35,946	35,611	37,440	1,829	5.1%

第115期決算概要: 連結貸借対照表(負債・純資産の部)

(単位: 百万円)

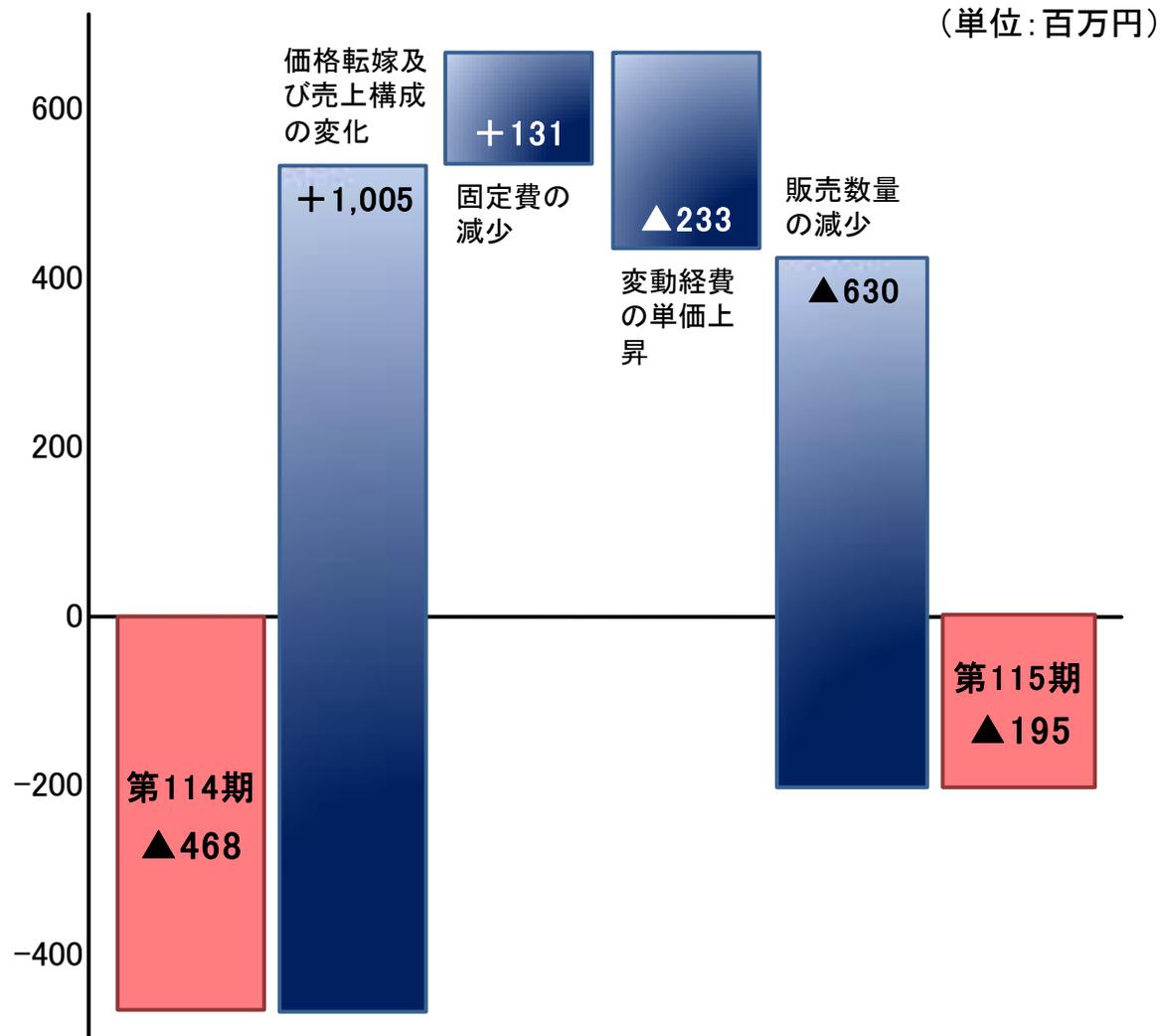
科 目	2022年3月期末 (第113期末)	2023年3月期末 (第114期末)	2024年3月期末 (第115期末)	対前期 増減額	対前期 増減率
流動負債	12,085	12,700	12,696	▲4	▲0.0%
仕入債務	7,019	6,920	6,919	▲1	▲0.0%
短期借入金	3,530	3,630	3,690	60	1.7%
その他	1,536	2,149	2,086	▲62	▲2.9%
固定負債	2,932	2,431	3,142	710	29.2%
長期借入金	1,364	883	412	▲470	▲53.3%
その他	1,567	1,548	2,729	1,181	76.3%
負債合計	15,017	15,132	15,838	705	4.7%
純資産	20,928	20,479	21,602	1,123	5.5%
負債及び純資産合計	35,946	35,611	37,440	1,829	5.1%

第115期決算概要: 連結損益計算書

(単位: 百万円)

科 目	2022年3月期 (第113期)	2023年3月期 (第114期)	2024年3月期 (第115期)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	28,674	27,870	27,521	▲349	▲1.3%
売上原価	24,769	25,287	24,656	▲630	▲2.5%
売上総利益	3,904	2,582	2,864	281	10.9%
販売費及び一般管理費	3,162	3,051	3,059	8	0.3%
営業利益	741	▲468	▲195	273	—
営業外収益	298	267	274	7	2.6%
営業外費用	66	35	43	8	22.9%
経常利益	973	▲236	35	272	—
特別利益	615	7	967	959	12,124.6%
特別損失	12	68	3	▲65	▲95.2%
税金等調整前当期純利益	1,576	▲297	999	1,297	—
税金費用他	61	▲99	651	750	—
親会社株主に帰属する当期純利益	1,515	▲198	348	546	—

第115期決算概要：営業利益の要因分解



販売面においては、販売価格の値上げに加え、比較的収益性の高い飲料用パウチや、両面テープ用剥離紙が好調であったことなどにより10億5百万円の増益要因となりましたが、数量減の影響は大きく、6億30百万円の減益要因となりました。

費用面においては、減価償却費や人件費等の固定費が1億31百万円減少し増益要因となりましたが、外注費や物流費等の単価上昇により、2億33百万円の減益要因となりました。

これらの諸要因により連結営業利益は2億73百万円赤字幅を縮小し、1億95百万円の営業損失となりました。

目次

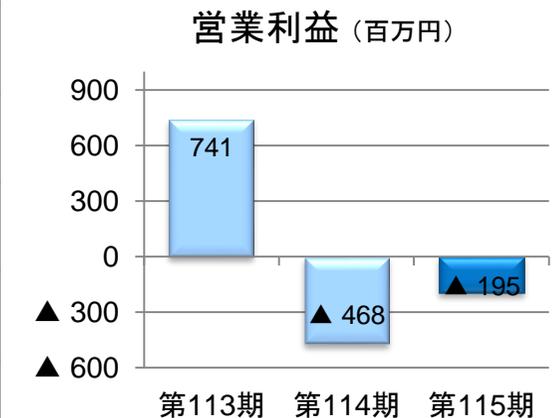
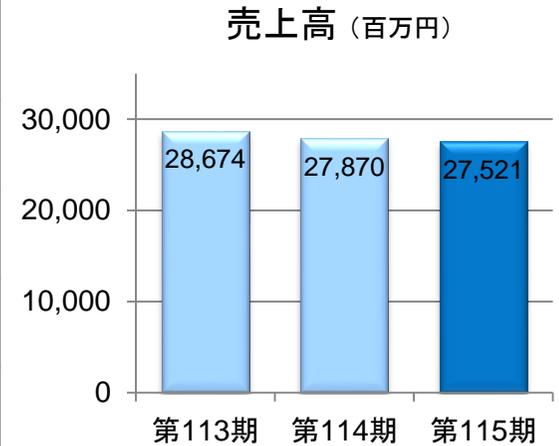
2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

各セグメントの概況: セグメント別業績内訳

(単位: 百万円)

科目/ セグメント	2022年3月期 (第113期)	2023年3月期 (第114期)	2024年3月期 (第115期)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	28,674	27,870	27,521	▲349	▲1.3%
軽包装材料	11,285	12,049	11,880	▲168	▲1.4%
産業資材	9,464	9,904	9,738	▲166	▲1.7%
機能性材料	7,639	5,588	5,557	▲31	▲0.6%
その他	283	327	344	17	5.2%
営業利益	741	▲468	▲195	273	—
軽包装材料	338	213	176	▲36	▲17.1%
産業資材	▲84	▲364	▲233	131	—
機能性材料	484	▲353	▲153	200	—
その他	2	37	15	▲21	▲57.7%



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

軽包装材料セグメント

食品、医薬品、医療器具、精密機器等の包材の製造・販売



主要顧客

- 食品製造業
- 医薬品・医療器具製造業
- 精密機器製造業
- その他製造業

生産拠点

静岡工場



奈良工場



東邦樹脂工業



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

食品用包材

売上高
6,144百万円



「レンジDo!」、「ポロソ」、清涼飲料用パウチなどが安定した売上を支える。

市場環境

- 同業400-500社程度
- 汎用品は競争厳しい
- 環境対応包材のニーズ高まる

収益性・成長性

- 電子レンジ用包材は温めるだけでなく、調理も行えるという認識が広まっている
- 介護、病人食用パウチの需要拡大期待

医薬品・医療用包材

売上高
1,911百万円



徹底した品質管理で顧客の信頼は厚い。

市場環境

- 品質要求厳しく新規参入困難
- 市場は拡大傾向

収益性・成長性

- バイオマスPTPシート「Medi Green」に期待
- 高齢化の進行で医療分野は成長期待

日用品等の包材

売上高
3,824百万円



多様な製品展開で受注変動リスクに対応。独自製品の開発・拡販に注力。

市場環境

- 環境対応包材の引き合い増加
- 高機能・利便性のニーズ高い
- 一般包材は競争厳しい

収益性・成長性

- 詰替え用パウチは多様化で競争厳しく
- 耐内容物包材は需要増加が見込める
- モノマテ化など環境対応製品開発急務

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

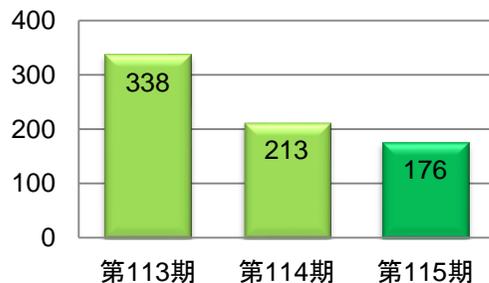
軽包装材料

- 売上高：11,880 百万円（前期比 1.4% 減）
- 営業利益：176 百万円（前期比 17.1% 減）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



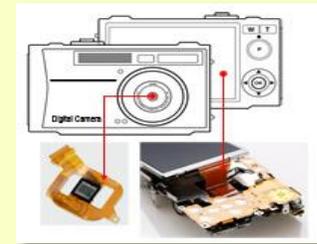
■ 減収減益

- 昨夏はアフターコロナで人の移動が活発になったことに加え、猛暑のため清涼飲料用パウチの出荷が好調。
- 外食の機会が増えたため、電子レンジ対応食品包材「レンジDo！」の販売数量は若干減少。
- 人出の戻りにより化粧品用包材やハンドソープ用包材などの受注は好調。一方詰め替え用パウチの受注は減少。
- 医薬品・医療用包材は、世界的に医療機関の診療体制が正常化に向かい、一服感があり数量減少。
- 原材料高騰の影響を販売価格に転嫁しきれず減益。

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

産業資材セグメント

粘着テープ基材及び各種剥離紙の製造・販売



主要顧客

- テープ・ラベル製造業
- プラスチック製品製造業
- 電子部品製造業
- その他製造業

生産拠点

掛川工場WEST



袋井工場



東邦樹脂工業



シノムラ化学工業



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

紙・布へのラミネート製品

売上高 3,983百万円



主に粘着テープ用基材をテープメーカーに販売。

市場規模（推定）

- 重包装袋：約900百万m²/年
- 紙テープ用：約420百万m²/年
- 布テープ用：約200百万m²/年

市場環境

- 海外製布テープ流入により減少
- 海外品OPPテープとも一部競合

収益性・成長性

- 一般品は生産数量の確保が課題
- 海外製テープ流入により、顧客である国内テープメーカーの事業への影響・懸念
- シノムラ化学工業子会社化によりシェア拡大し、競争優位性向上
- 原材料値上がりによる収益への影響大

剥離紙

売上高 5,754百万円



テープメーカーの他、電子・化学・自動車関連等、ユーザーは多岐にわたる。

市場規模（推定）

- 約2,700百万m²/年

市場環境

- 国内の需要減は底打ちも、消費の戻りが鈍い
- 海外向けテープ需要増

収益性・成長性

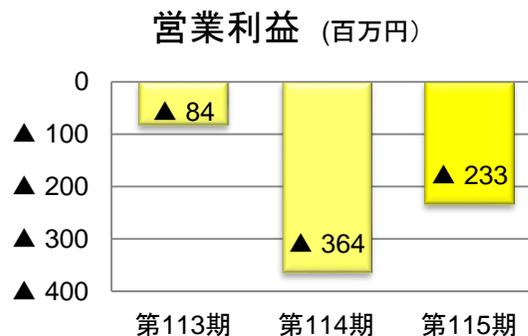
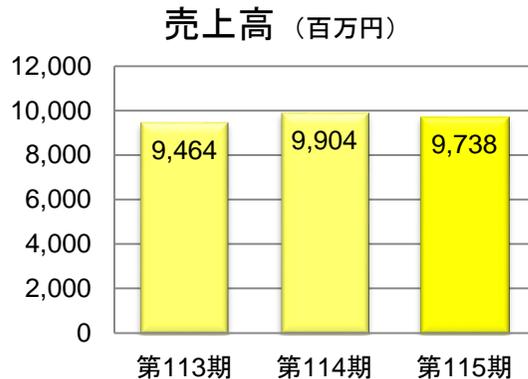
- 一般用途は競争激化
- 自動車関連用途の伸長に期待
- メディカル用途の拡充を目指す
- FPC用工程紙は、厳しい環境下ながら需要は安定

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

産業資材

■ 売上高： 9,738 百万円 （前期比 1.7 % 減）

■ 営業利益：▲233 百万円 （前期実績 ▲364百万円）

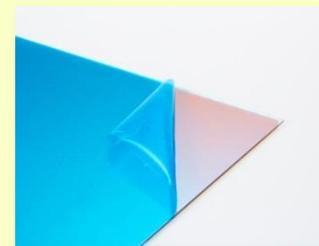


- 紙・布へのラミネート製品については、海外製テープとの市場競争が激しくなり、国内テープメーカーが苦戦した影響を受け減収。
- 剥離紙については、自動車関連部材向けの回復が遅れ気味のなか、中国家電メーカー向け両面テープ需要増にけん引され増収。
- シノムラ化学工業との営業部門統合による合理化効果により収益改善を図るも、原材料価格や電力、燃料費上昇分の価格転嫁が追いつかず、黒字転換できず。

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

機能性材料セグメント

機能性プラスチックフィルム（各種表面保護フィルム等）の製造・販売



主要顧客

- FPD関連メーカー
- 電気製品メーカー
- 住設機器・建材メーカー
- その他製造業

生産拠点

掛川工場



袋井工場



奈良工場



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

オレフィン系粘着加工品

売上高 2,750百万円

サニテクト
(粘着塗工タイプ)



PAC
(2層押し出しタイプ)



最初に生産を開始したPO系の表面保護フィルムで、用途は多岐にわたる。

市場規模（推定）

粘着塗工タイプ
■ 約100百万m²/年
(光学用途)

2層押し出しタイプ
■ 約700百万m²/年
(光学用途)

収益性・成長性

粘着塗工タイプ
■ 品種により他社製2層押し出しタイプとも競合
■ 一般用途は国内市場縮小で需要が減少傾向
■ レーザークット用など非光学用途の需要拡大に期待

2層押し出しタイプ
■ 偏光板用途は一定の需要が見込まれるも、品質面の差別化が課題
■ 環境配慮型製品として強粘着タイプに期待

その他の粘着加工品

売上高 2,806百万円

SAT、
サニテクトNS
その他
(PET基材タイプ他)



PETフィルムを基材とし、品質要求レベルの高い用途に使用される。

市場規模（推定）

精密塗工タイプ
■ 約600百万m²/年
(光学用途)

収益性・成長性

■ 光学関連用途は、在庫消化が進み回復傾向
■ スマートフォン関連はフォルダブルタイプの需要が増加傾向
■ 途上国向けスマートフォンは好調
■ 車載用、映像機器部材用途は量産レベルへ

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

機能性材料

■ 売上高： 5,557 百万円 （前期比 0.6 % 減）
 ■ 営業利益： ▲153 百万円 （前期実績 ▲353百万円）

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



- ウクライナ危機の長期化や中国経済の減速、各国の物価高騰の影響により個人消費が伸び悩んだ。
- 液晶パネルメーカー、部材メーカーの在庫調整が進み、光学用表面保護フィルムの受注は、期の後半からタブレット、スマートフォン市場を中心に回復傾向にある。
- 原材料価格や電力・燃料費高騰に対する製品への価格転嫁の進行により収益改善を図るも、販売数量減少により固定費負担が依然重く、赤字継続。

目次

3. 第116期(2025年3月期)業績予想と今後の施策

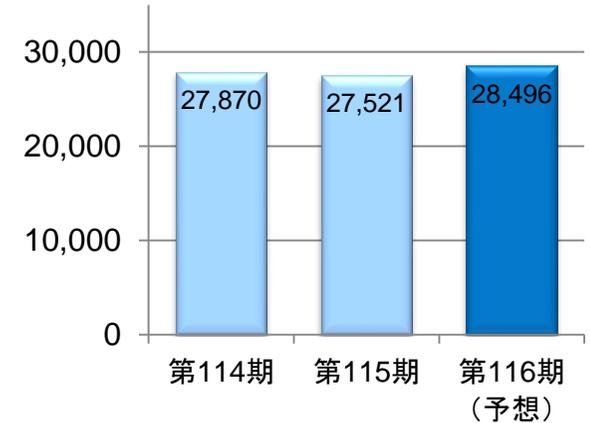
- 翌期業績予想
- セグメント別業績予想、今後の施策
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

第116期業績予想と今後の施策：翌期業績予想

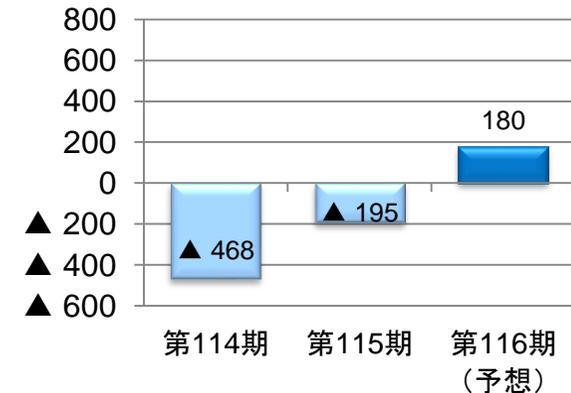
(単位：百万円)

科目／ セグメント	2023年3月期 (第114期)	2024年3月期 (第115期)	2025年3月期 (第116期) (予想)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	27,870	27,521	28,496	974	3.5%
軽包装材料	12,049	11,880	12,219	338	2.8%
産業資材	9,904	9,738	10,298	559	5.7%
機能性材料	5,588	5,557	5,692	134	2.4%
その他	327	344	287	▲57	▲16.7%
営業利益	▲468	▲195	180	375	—
経常利益	▲236	35	325	289	813.4%
親会社株主に帰属 する当期純利益	▲198	348	228	▲120	▲34.5%

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



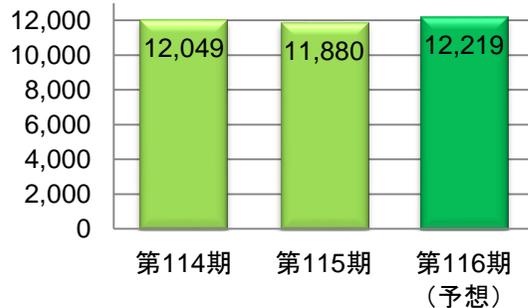
第116期業績予想と今後の施策：セグメント別業績予想（軽包装材料）

軽包装材料

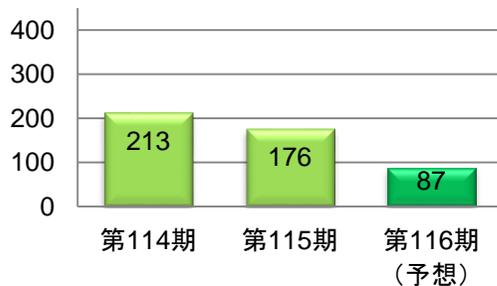
【第116期業績予想】

- 売上高： 12,219 百万円（当期比 2.8% 増）
- 営業利益： 87 百万円（当期比 50.7% 減）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）

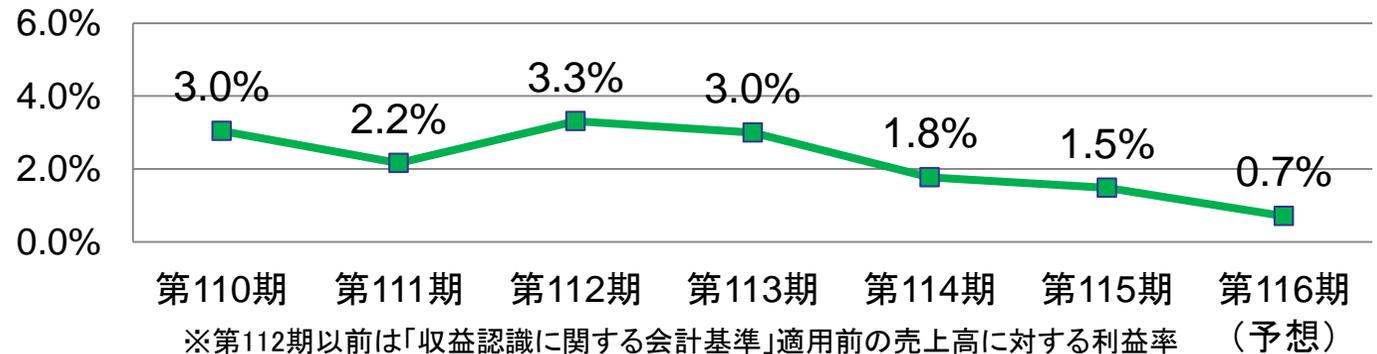


- 電子レンジ対応食品包材は、巣ごもり需要が収束へ。
- 使用済容器の減容化やプラスチック使用量削減の流れを受け、ボトルタイプの容器からパウチへの切替需要を取り込む。
- リサイクルしやすいモノマテリアルタイプのエア緩衝材を早期に商品化し、受注獲得を目指す。
- 奈良工場の新製袋ラインの償却費、設備移設費の発生等により大幅な減益予想。

第116期業績予想と今後の施策：今後の施策（軽包装材料）

軽包装材料

営業利益率の推移



- レンジ対応食品包材を使用した製品が増え、消費者の認知度も上がっている。
環境対応品など種類を増やし、業界の先駆者として更なる需要の創出を図る。
- 飲料用や液体洗剤詰替え用のパウチ、耐内容物包材「プラピカ」の拡販を進める。
- パウチ用新製袋ラインの、早期フル生産を目指す。
- 機能性設備移設後、製袋ラインを増設予定。セグメントや事業所の垣根を超えた生産の合理化を行い、筋肉質な経営体制を目指す。

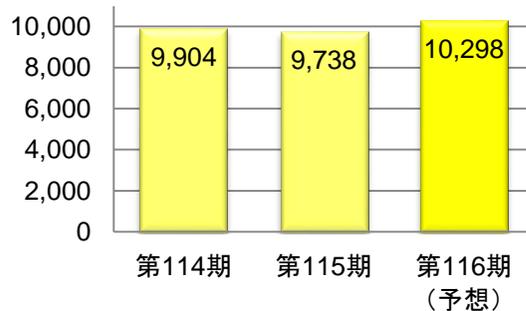
第116期業績予想と今後の施策：セグメント別業績予想（産業資材）

産業資材

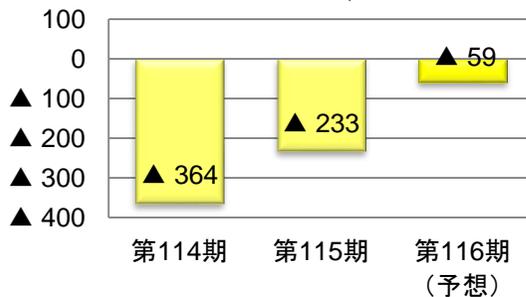
【第116期業績予想】

- 売上高：10,298 百万円（当期比 5.7% 増）
- 営業利益：▲59 百万円（当期実績 ▲233 百万円）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）

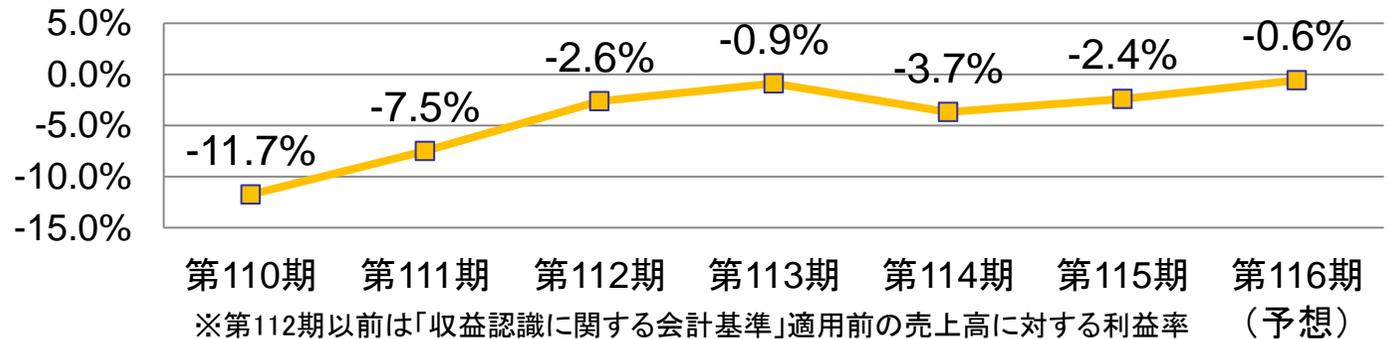


- 紙・布へのラミネート製品については、消費回復の戻りが弱いことから売り上げは横這い。
- 剥離紙については、輸出用両面テープの好調が続くと見込まれ、売上は対前期比プラス。
- 原材料コストだけでなく、ユーティリティコスト上昇分についても価格転嫁を進め、収益性は改善するも、受注数量の回復遅延と環境対策コスト増加により、赤字縮小にとどまる。

第116期業績予想と今後の施策：今後の施策（産業資材）

産業資材

営業利益率の推移



- シノムラ化学工業株式会社との間では、営業統合に続いて生産、管理などの機能統合を進め、調達体制の最適化、コスト削減などでシナジー効果創出を図る。
- 稼働率、加工スピードを上げ、生産体制を見直してロスを削減するなどし、利益を確保して黒字化を目指す。
- 収益性の高いラミネート布を中心とした新規拡販で、数量と利益を確保する。
- 利益に貢献しない不採算案件をなくすため、値上げや生産銘柄の見直しを行うとともに、設備の統廃合を積極的に進める。

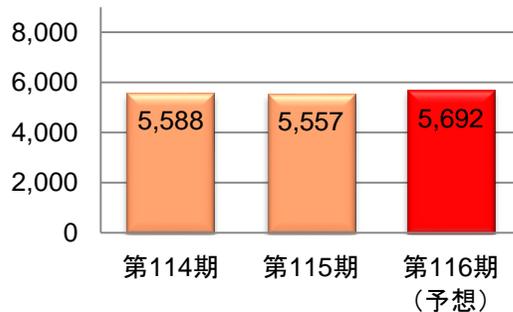
第116期業績予想と今後の施策：セグメント別業績予想（機能性材料）

機能性材料

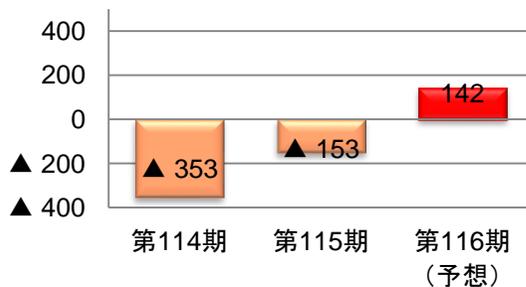
【第116期業績予想】

- 売上高： 5,692 百万円 （当期比 2.4 % 増）
- 営業利益： 142 百万円 （当期実績 ▲153百万円）

売上高（百万円）



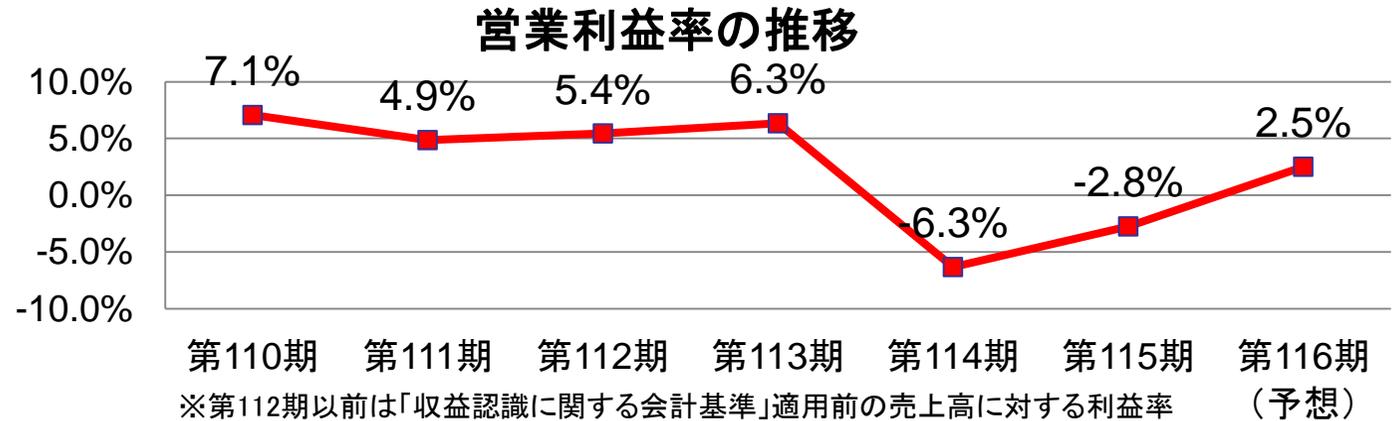
営業利益（百万円）



- 液晶パネルは、パネルメーカーの在庫圧縮が進んでおり、受注は回復傾向だが、力強さに欠けている。
- スマートフォン市場は、途上国市場向けが好調であり、各部材用の保護フィルム需要が戻りつつある。フォルダブルタイプの新機種が増えつつあり、市場の成長が見込まれる。
- 非光学用途では、ステンレスをはじめとした金属板のレーザーカット用や塩ビ代替タイプの需要増加に期待。

第116期業績予想と今後の施策：今後の施策（機能性材料）

機能性材料



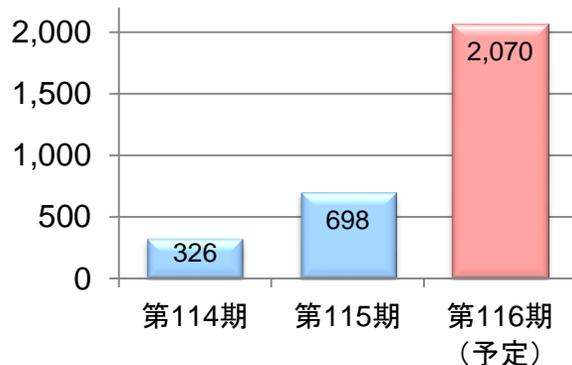
- 生産設備の統廃合と人員の再配置を計画的に進め、リソースの最適化とコスト削減に注力する。
- 原材料価格、ユーティリティ、人件費上昇などを勘案し、継続的な製品価格の是正を進める。
- 車載及び映像機器部材用保護フィルムの開発、拡販に注力し、更なるシェアアップを目指すとともに、製品部材など保護フィルムに限らない、成長分野向け機能性フィルムの量産化を急ぐ。
- 光学関連分野における他企業とのコラボレーションの検討、推進。

第116期業績予想と今後の施策：設備投資及び研究開発費

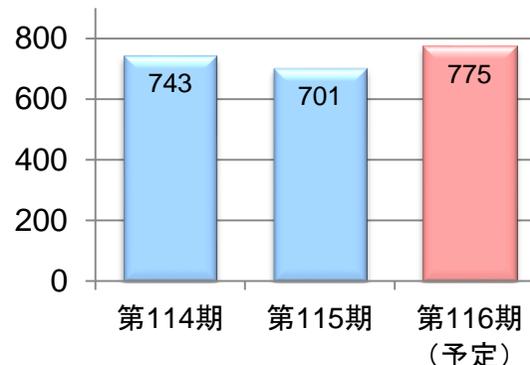
(単位：百万円)

科目	2023年3月期 (第114期)	2024年3月期 (第115期)	2025年3月期 (第116期) (予定)	備考
設備投資額	326	698	2,070	製袋機増設、設備改造、設備更新、サーマルリサイクル設備導入
減価償却費	743	701	775	上記設備投資により増加
研究開発費	399	413	400	従来水準を維持

設備投資額 (百万円)



減価償却費 (百万円)



研究開発費 (百万円)



目 次

4. 参考情報

- トピックス
- 基本情報

参考情報:トピックス（脱炭素化への取り組み）

■ 太陽光パネルを導入

- 環境に配慮した取り組みの一環として、太陽光パネルを掛川工場、掛川工場WEST、R&Dセンターに導入
- 2024年3月より稼働を開始

■ その他脱炭素化への取り組み

- 掛川工場、掛川工場WEST、R&DセンターにCO2フリー電気を導入、本社の照明LED化
- 今期以降も計画的に工場の省電力、省エネルギー設備の導入を予定
- 一般社団法人ラベル循環協会に入会



私たちは社会に対する企業責任を果たし、持続可能な社会作りに今後も貢献してまいります。

参考情報: トピックス (新製品紹介)

■ 横ピロータイプ対応「レンジDo!□」

横ピロータイプに対応した「レンジDo!□」を製品化

横ピロータイプ

従来タイプ



- 大森機械工業(株)様の専用包装機または同社製の既存製袋機にオプションを付けることで導入が可能
- 製袋と内容物の包装を同時に行うことができ効率的
- 従来タイプに横ピロータイプを加えることで様々な形態で提案が可能
- 製造工程が一工程減ることから、環境にもやさしい



参考情報: 基本情報

2024年3月31日現在

商 号
 証 券 コ ー ド
 設 立 者
 代 表 者
 事 業 所

株式会社 サンエー化研
 4234 (東証 スタンダード)
 1942年9月 (昭和17年9月)
 代表取締役社長 櫻田 武志
 本 社 : 東京都中央区日本橋本町1-7-4
 営 業 拠 点 : 東京、大阪、名古屋
 【海外】台湾、中国上海 (連結子会社 灿櫻(上海)商貿)
 生 産 拠 点 : 静岡、袋井 (2カ所 内1カ所は連結子会社 シノムラ化学
 工業(株) 本社工場)、掛川(2カ所)、天理、野木 (連結子
 会社 東邦樹脂工業(株) 本社工場)

資 本 金
 事 業 内 容
 連 結 従 業 員 数
 決 算 期

研究開発拠点 : 掛川
 21億76百万円
 高付加価値プラスチックフィルム・包材の製造・販売
 674名
 3月31日

業績予想は、本資料の発表日現在(2024年6月4日)において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

お問い合わせ先

株式会社 サンエー化研
経営企画室

Tel:03-3241-5702 Fax:03-3241-5719

E-mail:keiki@sun-a-kaken.co.jp